

稻作の現状とその課題について

令和7年11月
農林水産省
農産局穀物課

01 稲作の現状と課題

- 1-① 水稻作付農家数、経営規模
- 1-② 生産量、単収等の推移
- 1-③ 水稻の移植栽培体系例
- 1-④ 品種

02 米の生産コスト低減に向けて

- | | |
|-------------------------------------|-----------------------|
| 2-① 新たな食料・農業・農村基本計画
における目標並びにKPI | 2-⑨ 直播栽培の導入による労働時間の削減 |
| 2-② 米の生産コスト | 2-⑩ 高密度播種育苗栽培 |
| 2-③ 令和5年産米の作付規模別生産コスト | 2-⑪ 主食用米の主な多収品種 |
| 2-④ 水稻の労働時間 | 2-⑫ 水稻の高温耐性品種 |
| 2-⑤ 生産コスト低減に向けた具体的な取組 | 2-⑬ 多収・高温耐性品種の開発 |
| 2-⑥ 水稻の直播栽培 | 2-⑭ 乾燥調製施設の再編合理化の事例 |
| 2-⑦ 湛水直播の主な方式 | |
| 2-⑧ 乾田直播の主な方式 | |

03 事業紹介

04 参考資料

1 - ① 水稻作付農家数、経営規模

- 水稻作付農家数は、平成27年からの5年間で約25%減少。
- 主業農家の割合は依然として低い水準にある。
- 一方で、1経営体当たりの作付面積は拡大しており、作付面積15ha以上の農家の面積シェアは、平成12年の1.7%から、令和2年の27.2%と25.5ポイント上昇している。

○ 農家数の推移

	平成 12年	平成 17年	平成 22年	平成 27年	令和 2年	令和2年/ 平成27年
総農家数	3,120	2,848	2,528	2,155	1,747	81%
販売農家数	2,337	1,963	1,631	1,330	1,028	77%
水稻作付農家数	1,744	1,402	1,159	940	699	74%
主業農家数	321	269	217	170	127	75%
準主業農家数	502	373	323	209	110	53%
副業的農家数	920	761	620	561	461	82%

単位：千戸

○ 販売目的水稻経営体の1経営体当たりの作付面積の推移

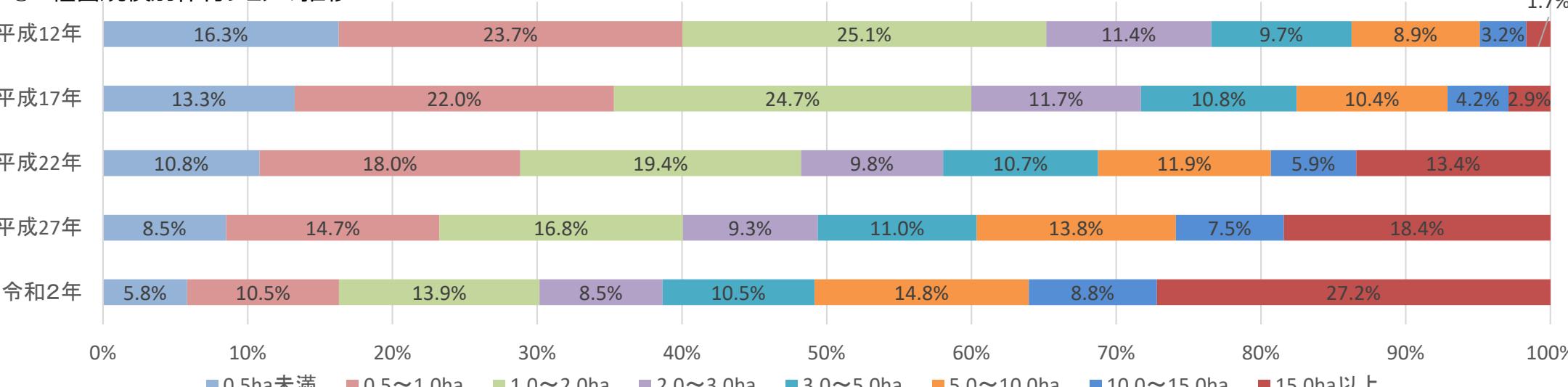


【販売農家】経営耕地面積が30a以上又は過去1年間の農産物販売金額が50万円以上の農家。【準主業農家】農外所得が主で、65歳未満の農業従事60日以上の者がいる農家。

【主業農家】農業所得が主で、65歳未満の農業従事60日以上の者がいる農家。

【副業的農家】65歳未満の農業従事日数60日以上の者がいない農家。

○ 経営規模別作付シェアの推移



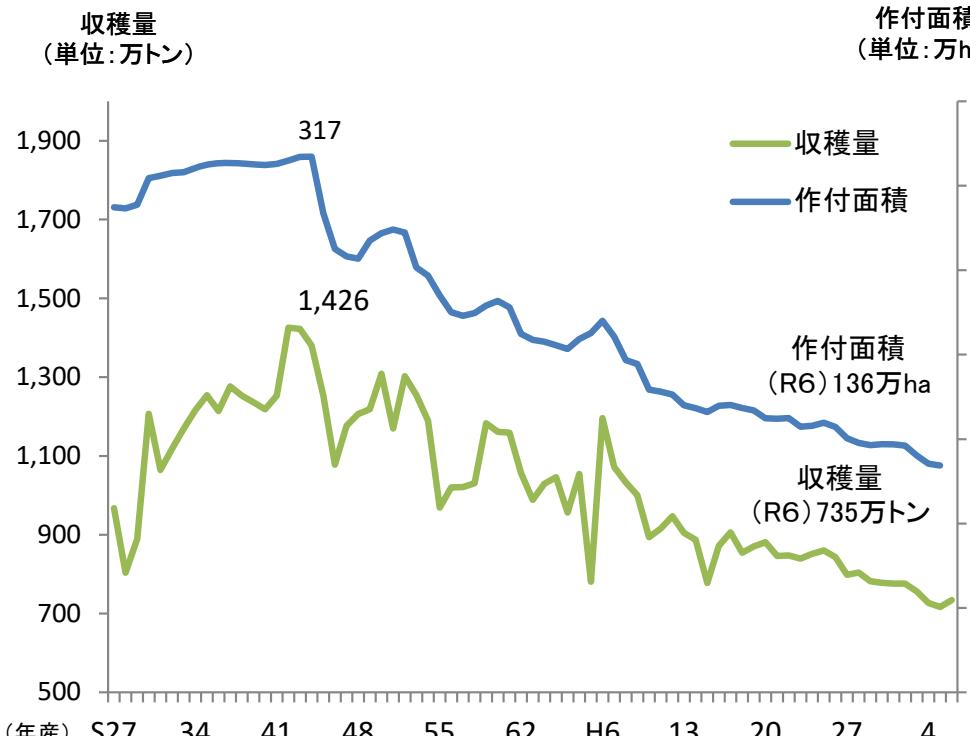
※平成12~17年までは農家数、22年からは経営体数

出典：農林水産省「農林業センサス」

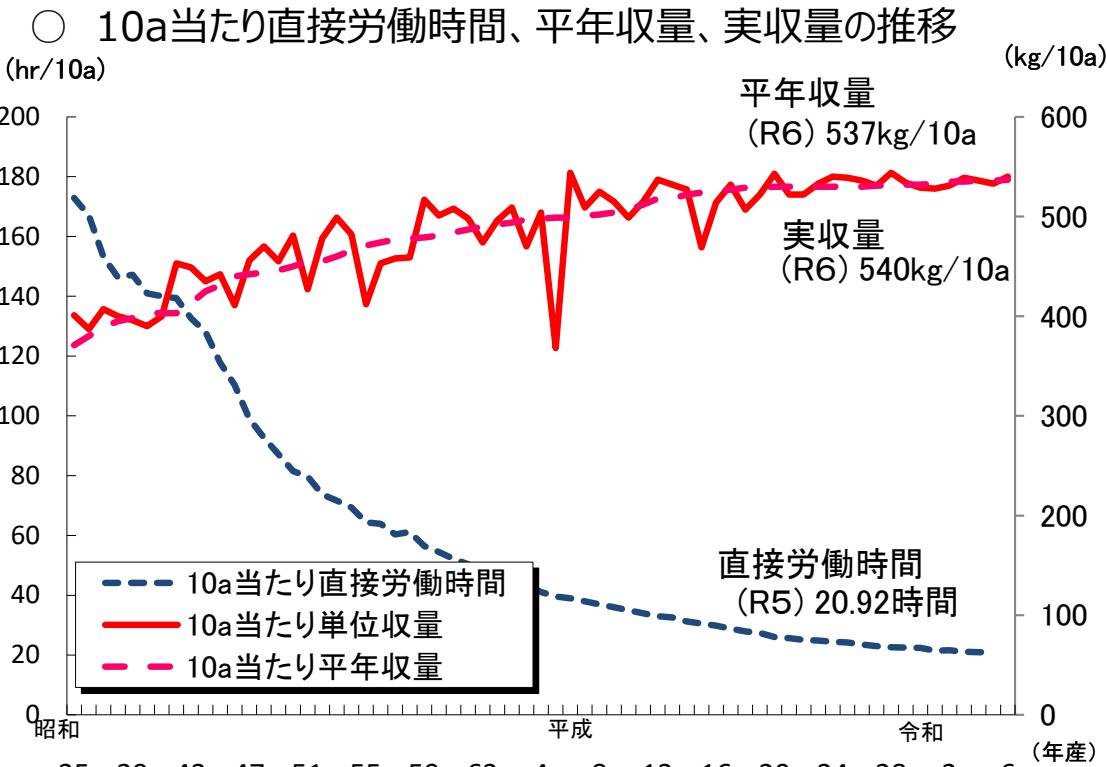
1 - ② 生産量、単収等の推移

- 水稲の収穫量は昭和42年、作付面積は昭和44年をピークに、国民の食生活の変化による米の消費量の減少等に伴い減少してきている。
(令和6年産の収穫量735万t、作付面積136万ha)
- 水稲の単収は、栽培技術の向上等により、順調に向上してきたが、近年、良食味品種の普及、品質を重視し施肥量を抑える栽培方法の普及等により、その伸びは鈍化。(令和6年産の10a当たり実収量540kg)

○ 水稲（子実用）の作付面積と収穫量の推移



出典：農林水産省「作物統計調査」



出典：農林水産省「作物統計調査」、

「農産物生産費統計」及び組替集計（令和4・5年産）

注：経営耕地面積50ha以上かつ10a当たり資本利子・地代全額算入生産費に対する
「賃借料及び料金」の割合が50%以上の経営体を除いた個別経営体の数値である。

○ 水稲（子実用）の作付面積、収穫量、単収が多い都道府県（令和6年産）

	全国	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
作付面積 (千ha)	(計) 1,359	新潟県 (116)	北海道 (95)	秋田県 (84)	宮城県 (63)	福島県 (63)
収穫量 (千トン)	(計) 7,345	新潟県 (623)	北海道 (562)	秋田県 (490)	宮城県 (366)	福島県 (357)
単収 (kg/10a)	(平均) 540	青森県 (623)	長野県 (620)	北海道 (592)	宮城県 (583)	山形県 (583)

出典：農林水産省「作物統計調査」

1 - ③ 水稻の移植栽培体系例

※生育ステージの期間や水管理等の栽培体系は地域、天候、品種（早生、晩生）等によって異なるため、地域別の栽培暦等を参照。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月						
作業工程	育苗 田植	管理				刈取 乾燥調製								
生育ステージ	4～5日周期で出葉 活着期 栄養生長期 幼穂形成期 穂ばらみ期 出穂開花期 登熟期													
水管理	深水湛水 浅水湛水 間断灌漑 中干し 低温時深水湛水 (幼穂形成期10cm、穂ばらみ期20cm) 間断灌漑 落水													
除草・施肥・病害虫防除	土づくり 箱剤処理 基肥 (1回目)除草 (2回目)除草	病虫害防除 穗肥(追肥)				土づくり								

※点線の工程は必要に応じ実施



【育苗】



【田植え】



【中干し】



【出穂】



【登熟期】

1 - ④ 品種

- コシヒカリが育成されたのは、昭和31年（1956年）。
- H27年産から、上位5品種の作付比率順位に変動なし。
- 近年では、地域のブランド品種として、作付面積を増やしている品種も見られる。

○ 主な水稻作付品種（割合）の変遷

平成2年産		平成7年産		平成12年産		平成17年産		平成22年産		平成27年産		令和元年産		令和2年産		令和3年産		令和4年産		令和5年産	
品種名	作付比率	品種名	作付比率	品種名	作付比率	品種名	作付比率	品種名	作付比率	品種名	作付比率	品種名	作付比率								
コシヒカリ	28.1	コシヒカリ	28.8	コシヒカリ	35.5	コシヒカリ	38.0	コシヒカリ	37.6	コシヒカリ	36.1	コシヒカリ	33.9	コシヒカリ	33.7	コシヒカリ	33.4	コシヒカリ	33.4	コシヒカリ	33.1
ササニシキ	11.3	ひとめぼれ	7.1	ひとめぼれ	9.7	ひとめぼれ	10.6	ひとめぼれ	9.9	ひとめぼれ	9.7	ひとめぼれ	9.4	ひとめぼれ	9.1	ひとめぼれ	8.7	ひとめぼれ	8.5	ひとめぼれ	8.3
日本晴	6.6	あきたこまち	6.6	ヒノヒカリ	9.0	ヒノヒカリ	10.3	ヒノヒカリ	9.8	ヒノヒカリ	9.0	ヒノヒカリ	8.4	ヒノヒカリ	8.3	ヒノヒカリ	8.4	ヒノヒカリ	8.1	ヒノヒカリ	7.4
あきたこまち	4.4	ヒノヒカリ	5.4	あきたこまち	8.1	あきたこまち	9.0	あきたこまち	7.7	あきたこまち	7.2	あきたこまち	6.7	あきたこまち	6.8	あきたこまち	6.8	あきたこまち	6.7	あきたこまち	6.7
ゆきひかり	3.4	日本晴	4.4	きらら39 7	4.8	キヌヒカリ	3.4	キヌヒカリ	3.2	ななつぼし	3.4	ななつぼし	3.4	ななつぼし	3.4	ななつぼし	3.3	ななつぼし	3.2	ななつぼし	3.3
初星	2.8	きらら39 7	4.2	キヌヒカリ	3.6	きらら39 7	3.3	ななつぼし	2.8	はえぬき	2.9	はえぬき	2.8								
むつほまれ	2.5	ササニシキ	3.8	はえぬき	2.7	はえぬき	3.1	はえぬき	2.6	キヌヒカリ	2.7	まっしぐら	2.2	まっしぐら	2.5	まっしぐら	2.5	まっしぐら	2.4	まっしぐら	2.5
きらら39 7	2.5	ゆきひかり	3.2	ほしのゆめ	2.6	ほしのゆめ	2.5	きらら39 7	2.1	まっしぐら	1.9	キヌヒカリ	2.1	キヌヒカリ	1.9	キヌヒカリ	1.9	キヌヒカリ	1.9	ゆめびりか	1.9
黄金晴	1.8	キヌヒカリ	2.7	日本晴	1.3	つがるロマン	1.7	つがるロマン	1.6	あさひの夢	1.6	あさひの夢	1.7	きぬむすめ	1.6	きぬむすめ	1.7	ゆめびりか	1.8	きぬむすめ	1.8
中生新千本	1.6	むつほまれ	2.5	つがるロマン	1.3	ななつぼし	1.3	まっしぐら	1.5	こしいぶき	1.5	ゆめびりか	1.6	ゆめびりか	1.6	ゆめびりか	1.7	きぬむすめ	1.8	キヌヒカリ	1.8

出典：H21年産まで農林水産省調べ、H22年産以降は、（社）米穀安定供給確保支援機構 情報部調べ